

創世記前回のビデオでは 聖書全体のストーリーの始まり
である創世記 1 章から 11 章を見ました 神は世界のあらゆるものを造り
それらを正しく管理するように と
人間を神のかたちに創造しました しかし人間が罪と反抗の道を選んだ
ため 世界は秩序を失い暴力と死で満ち
溢れ やがてバベルの塔の反逆に発展
します さて神はどうやって世界を救い
贖われるのでしょうか バベルの塔で散らされた人々の中
から 著者はアブラム後にアブラハム
という名で 知られることになる男性へたどり
着く一つの系図を紹介し ます このアブラハムに対する神の約束
が記されている 12 章の冒頭部分 が
新しい物語の幕開けとなるのです 神はアブラハムに故郷を去りカナン
という地に行けと命じます その土地はいつか彼のものになる
というのです その地においてアブラハムを大いなる
国民とし その名を大いなるものとし祝福
すると約束しました これはこの書の最初の部分とつながる
約束です バビロンは傲慢にも自分たちで
名を上げようとしてましたが 失敗に終わりました
しかし神は誰も知らないこのアブラハム という男に偉大な名を与えて祝福
しました それは神が世界の始まりで人類
に与えた祝福と響き合うものです 神がアブラハムとその子孫を祝福
する理由は 神の約束の言葉の一番最後に書いて
あります 地のすべての部族はあなたによって
祝福される この約束が聖書全体を理解するための
鍵となります 神の計画はご自分に逆らう人類
をアブラハムの子孫を通して救い祝福することでした
そのためこの後に続く旧約聖書 全体がアブラハムの子孫である
イスラエルの民に焦点を当てている のです
神はこの民をシナイ山において 祭司の王国と呼びイスラエルを
通して他のすべての国々にご自分を 現そうとされたのです
そしてこれは後の時代に預言者 や詩人たちがイスラエルのメシア
なる王を通して成就すると語った 約束でしたこの王がすべての国
に義と平和をもたらすのですしかし この時点ではまだ何もわかって
いませんこの約束がどのように 果たされていくのか続けて見て
いきましょう 創世記はこのあとアブラハムとその

子孫に焦点を当てていきます初め はアブラハム自身に次に息子イサクとその息子ヤコブそしてヤコブ の 12 人の息子たちです
各世代のストーリーを結びつける 二つのテーマがありますまず アブラハムの子孫のどの世代も繰り返し過ちを犯すということです
彼らは何度も愚かな判断をして は
自分たちの人生と神の約束を台無しにするところでした
しかし神の真実は変わりませんでした 何度でも彼らを愚かさで罪から救い出しその過ちにもかかわらず 祝福を与え彼らを通してすべての国民を祝福するという決意を示され続けたのです
まずはアブラハムです神は子孫の繁栄を約束してくれましたが彼は妻目当ての男たちに殺されるのではないかと恐れたことが2度ありましたそこで彼は彼女と結婚していることを隠すのです
当然のことながらこれはトラブルの種となりました
それだけではありませんアブラハム 夫妻には子供がいませんでした
そこで妻のサラはアブラハムに 女奴隷を与え
子をもうけさせたのです これももちろん家庭内に大問題を引き起こしました
しかし神はそのたびにアブラハムを救い出し 15 章と 17 章においては 彼に対する約束をさらに確かなものとして契約を結びました 神はアブラハムに夜空を見上げて星を数えるように命じ 彼の子孫はこれほどまでに多くなる
と言います子どももなく またこれから生まれるとも思えない
厳しい現実にもかかわらず アブラハムは空を見上げ神の約束をそのまま信じました 神はそんなアブラハムと契約を結び彼を国々の父とし それを通して世界中に神の祝福
が行き渡ると約束したのです そしてアブラハムに契約のしるしとして一族の男子全員に割礼を受けさせるように命じました
これは 彼らの繁栄が神からの恵みである
と思ひ起こすための象徴です アブラハムは多くの子孫を得て長寿を全うして死にました 次のヤコブのストーリーではこのテーマがさらにドラマチックに浮き彫りにされます
ヤコブは生まれた時からその名の通り出し抜く人でした
彼は兄のエサウから相続権と祝福を だまし取るため
年老いて目の見えなくなった父を欺き逃げたのです
それから本当に愛していたのは ラケル 1 人だったにもかかわらず
4 人の妻をめとる羽目になり これが家族内にライバル関係を
生みました ヤコブは叔父のラバンから何年

にもわたってだまされ続け 苦しめられました立場が逆転した
のです そこでヤコブは故郷に帰ることに
しました 不思議な話ですがその旅の途中で
ヤコブは神と格闘し 自分を祝福してくれとせがみます
彼はいつも祝福を受けることに 貪欲でした
しかし神はこの揺るがぬ願いを よしとし
アブラハムの祝福を彼に継承し その名をイスラエルと改めます
これは神と戦うという意味です そして最後はヤコブの息子たちの
ストーリーですべてのテーマがくっきりと浮かび上がってきます
ヤコブは下から二番目の息子の ヨセフを他のどの息子よりも愛し
彼に特別な上着を与えていました ヨセフを憎む兄たちは彼を殺そう
としましたが実際にはエジプト に奴隷として売り飛ばしますヨセフ
はそこで投獄されてしまいました これもまた家族のトラブルの話
です しかし神はヨセフと共にいて彼
を牢獄から解放しエジプトの王 ファラオはヨセフをエジプトの
ナンバー2 の地位に抜擢しました その結果ヨセフはエジプトを飢饉
から救い最終的には自分の兄弟 と家族を飢え死にの危機から救う
ことになったのです ここでもアブラハムの子孫の愚
かさと罪を通し 神の真実を知ることとなります
神はヨセフの兄弟の罪を命を救う チャンスへと変えたのです
ヨセフが この書の終わりに兄弟に向かって
こう言っているとおりです あなたがたは悪を謀りましたが
神はそれを 良いことの計らいとし多くの命
を救った
この言葉は意図的に最後の部分 に置かれているのです
なぜならこれはヨセフたちのストーリー の結論であると同時に
この書全体の結論でもあるから です
創世記 3 章から今日まで 人間は自己中心的な生き方をして
罪を犯し続けていますが 神は世界をなるがままに放置したり
はなさいません 神はいつも真実な方で数々の過
ちを犯した人類を 祝福すると決めています
このことは女の子孫についての 不思議な約束が
どのように果たされていくかを 通し明らかにされていきます
3 章の出来事を覚えていますが神は 傷を負った勝利者が
蛇の頭を砕き悪をその根から断つと約束しました
創世記の著者はこの約束を アブラハムとその子孫に直接結び

つけているのです。これが神が国々を祝福する計画の一部なのです。アブラハムから始まったこの約束は、ヤコブの4番目の息子ユダに受け継がれました。年老いたヤコブが死を前にしてよんだ詩である49章はとても重要です。12人の息子を祝福しようとしたヤコブはユダの番になるとユダ族はイスラエルの王族となり、いつかこの部族からすべての国を治め、エデンの園の祝福を回復させる王が出ると預言しました。祝福を与え終わるとヤコブは死にやがてヨセフも世を去ります。イスラエル部族はエジプトに留まり、未来の希望と約束の成り行きは秘められたまま創世記は終わり、まず先が気になって仕方がありません。がまずはここまで。

500字要約

創世記前半のビデオでは、聖書の始まりである創世記1章から11章を見ました。神は世界のあらゆるものを造り、それらを正しく管理するように人間を創造しました。しかし、人間が罪と反抗の道を選んだため、世界は秩序を失い、暴力と死に満ち溢れ、バベルの塔の反乱に発展しました。その後、神はバベルの塔で散らされた人々の中からアブラハムという名で知られる男性へたどり着く一つの系図を紹介します。神はアブラハムに故郷を去り、カナンという地に行けと命じ、その土地はいつか彼のものになると約束します。アブラハムを大いなる国民とし、その名を大いなるものとし祝福すると約束します。これは創世記の最初の部分とつながる約束です。バビロンは傲慢にも自分たちで名を上げようとしていましたが、神は誰も知らないこのアブラハムという男に偉大な名を与えて祝福しました。神の計画はご自分に逆らう人類をアブラハムの子孫を通して救い、祝福することでした。そのため、この後に続く旧約聖書全体がアブラハムの子孫であるイスラエルの民に焦点を当てているのです。神はこの民をシナイ山において祭司の王国と呼び、イスラエルを通して他のすべての国々にご自分を現そうとされたのです。創世記はその後、アブラハムとその子孫に焦点を当てていきます。各世代のストーリーを結びつける二つのテーマがあります。まず、アブラハムの子孫のどの世代も繰り返し過ちを犯すということです。彼らは何度も愚かな判断をして自分たちの人生と神の約束を台無しにするところでした。しかし、神の真実は変わりませんでした。何度でも彼らを愚かさから救い出し、その過ちにもか

かわらず祝福を与え、彼らを通してすべての国民を祝福するという決意を示され続けたのです。

アブラハム自身も神の約束に対する信仰を試されましたが、神はその約束を確かなものとし、アブラハムを国々の父とし、神の祝福が世界中に行き渡ると約束しました。そして、アブラハムに契約のしるしとして一族の男子全員に割礼を受けさせるように命じました。

ヤコブのストーリーでは、ヤコブが兄エサウから祝福をだまし取るなどの問題が浮き彫りにされ、ヤコブが神と格闘し、その名をイスラエルと改める場面が描かれています。ヨセフのストーリーでは、彼が兄弟に売られ、エジプトで苦難を経験しながらも神と共にいてエジプトのナンバー2の地位に抜擢され、家族を救う役割を果たす場面が描かれています。

創世記は人間の罪と愚かさに対する神の真実と恵みが繰り返し示される物語であり、アブラハムの子孫を通じて世界に祝福が広がる計画の一部を示すものです。この物語は神の約束と計画がどのように果たされていくかを探求し続けるための鍵となります。